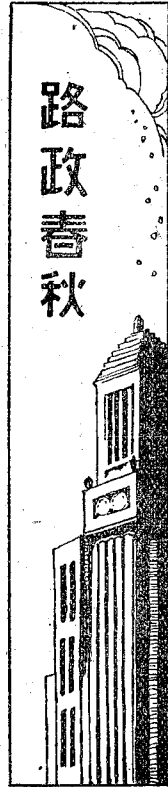


# 路政春秋



## 道路愛護の珠玉は

光る

人みながかゝる心をもつならば世の道いかにうるわしくあらむと詠じたい感がする譚は秋田縣能代町と二ツ井間の國道二十四キロのデコボコ道が何時の間にか不陸は直はされて見違へる程立派に修理された、縣の方でも地元の方でも一向に手を付けないの如何にして斯くはなりしかと詮儀すれば其には能代町柳町の自動車店主伊藤萬吉氏の人知れず盡した交通美譚がある。即ち伊藤氏は數年前からこの國道にバス營業をしてをり悪路には常に惱まされてゐたが道路破損の責任は自分のバスもその一端を負ふ

べきだ、と痛感、四月始め砂利運搬用トラック一臺(價格千餘圓)を購入して能代土木出張所へ寄附、更に月給自分持ちで運轉手一人を世話し國道修理方を願ひ出た、伊藤氏の義侠にすつかり感激した八木所長、早速縣へ此の旨申し送つて砂利とガソリンの支給を受け悪路修理に取かゝつたとのことである。

## 資源の開発は道路

から

北支方面資源の開発は研究検討の時期にあらず一日も速かに實行しなければならぬことは一言を費やさずして明かなる所であるが茲に着意して青島の華北汽車公司以

### 注 意

本欄は讀者諸氏の利用に提供す、治安と風俗とを害し又は人身攻撃に渡らざる限奇想天外的の奇稿を望む、一文は四百字位にて取捨は編輯手に一任、原稿は道路の改良編輯部宛のこと。

は山東省内長距離自動車路の開設を企て青島殿南間青島芝罘間等青島を中心に全長五千キロに亘る大自動車道路網を樹立し近く工事に着手することとなつたと傳へらる、資源の開発は此自動車路に依つて進捗の歩武を進むるに至るべきは期して待つべき所である。

## 海底の豆隧道が浮

び出るのか

現在掘鑿されてゐる關門鐵道國道兩隧道の豆隧道は本隧道掘鑿に當り排水材料機具の運搬等の重要な役割を務めると共に將來は本隧道の排水(電信、電話線の敷設)等の役目を仰付かるわけだが何千何百萬とい

ふ豆費を投じて折角掘鑿した豆隧道をこれだけに使用するのには甚だ惜いことだ何とかな少し使用の途はないものかと頭を捻つた結果本隧道同様の大きさに坑口を擴大し一般の通路としてはどうかといふ新しい研究が鐵道、内務當局に持上つてゐる、若しもこれが實現出来れば鐵道國道と各二つ宛四つの隧道が一時に完成するわけだ、と其經費が二十萬圓位で此海底の豆隧道が四筋も本土と九州とを結付くこととなれば寔に以て至幸である、石が浮かんで木の葉が沈む世なりとも浮び出だせよ豆の隧道

### シグナルも唧ち顔

とは

ガソリン統制三日——織るやうなトラックの洪水、ハイヤーのラツシユも統制第一日からグツと數とスピードとを落し流石の京濱國道、ゴーストツブのシグナルも唧ち顔でこれが名うての大國道かと思へるほど

だ、初夏の宵の散歩を樂しむ人にまことガソリン一滴は血の一滴よりも尊いことを日に強く刻み込んでこれまで一日千ガロンに達したスタンドも今は十分の一の客足もないとは事實であらう、だがラツシユアワリーの川崎驛と大井驛とのアノ混亂雜沓は何んとか緩和の途はなきものか、老人や婦女子ならずとも生命の惜しいものはうらめしげに電車も見送らねばならぬ有様だ、ハイキングに山が招くと宣傳するよりも此客足の整理と安全とを計畫してもらいたいものである。

### 今更姿を消すとは

和田倉門

和田倉門鎖されて既に久しきものであるが夫れで東京驛を出て、坂下御門に向つて右の方に舊き姿を其儘に昔を偲ばせて居る和田倉門は藏の御門とも謂はれた由緒深い江戸城門の一つ、櫓門と高麗門と和田倉橋

とから成り城門の枳形は元和六年の城普請で築造された見事なものであつたが大正十二年の大震災で大門の渡櫓を大破櫓門は撤却されてしまつた。その後は高麗門と木橋だけが残り僅に昔の名残をといめてゐたのであるが門は傾き橋桁は落ち最早崩壊を待つばかりとなつた。和田倉橋は平川橋とともに残存せる江戸木橋の唯二つのもので、門も由緒が深いのであるので、當局では橋は全部を綿密な部分寫眞として保存、擬寶珠だけは本物を保存し高麗門はそつくり宮内省に格納、將來所謂和田倉門内にある内閣のバラックが他へ移轉して後はあの一帯を宮城外苑の綠地帯となすとの事である。

### あるかなきかの珍

聞奇譚 (15)

○石斧土器類の發掘 栃木縣下都賀郡桑村大字飯塚紫雲寺地内の開墾地で石斧四個と研石二個他繩文式土器破片數個を發見學界

に新しい話題を投げつゝゐる、同斧類は同町考古學者藤田幾喜氏の鑑定によると、三千年以前のもので大きいのは長さ十九センチ幅九センチで分銅形を成し、研石は十二吋×七吋の隋圓形で先住アイヌ族の文化史と縣下における分布状態とを研究する好個の資料である。

○古墳の發見 同縣足利郡北郷村樺崎小學校南方の山腹を村民十二名が共同開墾中崩れた古墳八個を發見その内一ヶ所から赤錆の直刀(長さ約二尺で二つに折損せるもの)を發見し縣史蹟調査員丸山瓦全氏が兩日間出張調査したが、既にいつの頃か發掘されたものと認め、その付近に完全な古墳が六ヶ所ある事を突き止め、崩さぬ様に注意しその旨縣へ報告した。

○池底から曲木の遺址 奈良縣磯城郡耳成村新賀池で國道十五號線工事に用ひた土砂採掘中、池底から彌生式薩摩薯型大型土器、同式の壺型土器、祝部式瓶、土師質壺形土器

圓筒埴輪片奈良期遺瓦骨片、植物性遺物、曲木を積み重ねた遺址などの珍品が多數發掘された。曲木でつくつた遺址は直徑一尺高き五寸のものを五段積み重ね底と蓋とがつき底は圓形の板でその上に燈火用の土器があり、曲木の繼目は櫻の木皮でつなぎ周圍を拳大の石でかため恰も埋葬の棺のやうな状態を呈してゐる。この曲木の遺址は一メートル五〇の間隔を置いて南北に四つ並び更にその線より二メートル東方で同一間隔を置いて數個出土したが惜しくも土砂採掘の際全部破壊された。この曲木遺址は古墳か生活遺址であるかは不明であるが子供の埋葬棺説が有力であり附近から無數の骨片が混入して學徒の興味を唆つてゐる、また薩摩薯型土器は長さ一尺八寸、幅六寸五分で口縁部が破壊されてゐる。出土地の斷層面および現在までの出土状態から考察して彌生式遺址の上に古墳がつくられたものらしく今後の發掘に期待をかけられてゐる。

るが第二の唐古池として學界の耳目を集めてゐる磯城郡耳成村新賀池底からも石槌、土師質高坏、提瓶、祝部式甕、壺型土器曲木など數十個出土し學界の興味をさらにそよつてゐる。殊に曲木は從來破壊され易い關係上正體を掴み、得せ棺説と井戸側説との二説に分れてゐたが、更らに池の西北方から完全な曲木が現れ、櫻井高女教授土井實、大和國史會島本一兩氏が究明のメスをふるつた結果、曲木の内部から埋葬に用ひたやうな土器、骨片など現はれ底部の構成状態から推して棺と斷定され凱歌が揚つたとのことである。

王 之 渙

白日依山盡

黃河入海流

欲窮千里目

更上一層樓